

ニューズレター雪氷北信越

№. 20 平成3年7月16日

日本雪氷学会北信越支部発行

目次

平成3年度支部総会・研究発表会・製品発表検討会報告／平成3年度第1回理事・幹事合同会議報告／学習会・見学会の案内／IGS／研究集会他

報告

日本雪氷学会北信越支部平成3年度総会・研究発表会報告

期日： 平成3年6月1日（土）12時45分より

場所： 富山大学工学部大会議室

参加者： 54名

中村支部長の挨拶の後、平成2年度事業・決算が報告され承認された。平成2年度全国大会（十日町市開催）について、開催地の協力を得て成功裡に閉会したことが、遠藤八十一実行委員長より報告された。平成3年度事業計画及び予算案が示され承認された。支部役員任期変更に関する支部規約改訂案が執行部より提出され、原案通り任期を2年とすることになった。平成3年度の理事及び監事が選出され、支部長、副支部長が互選された。梅村新支部長の就任挨拶の後、1992年長岡IGS（国際雪氷学会）シンポジウムについて、中村開催地準備委員会委員長より説明があり、2ndサーキュラーの配布及び実行委員会の組織化が報告された。

なお総会后、早川前幹事長より「支部活動を振り返って」と題して講演があり、会員数の動向、アンケート結果の活用、他支部の工夫の紹介等が報告された。当日に機関誌『雪氷北信越第7号』が参加者に配布された。研究発表会では18件の講演があり、また製品発表検討会では5件の発表があり、活発な議論が続けられた。その後、理学部別室にて懇親会が開かれた。今回は初めて長岡市以外での開催であったが、富山大学理学部教授対馬副支部長のご尽力により、活発にしかもスムーズに運営されたことを報告する。

役員

平成3年度北信越支部三役・理事名簿

支部長	梅村晃由	長岡技術科学大学機械系教授
副支部長	高瀬信忠	金沢大学工学部教授
	対馬勝年	富山大学理学部教授
幹事長	中尾正義	防災科学技術研究所 長岡雪氷防災実験研究所室長

理 事

阿部 勉 関越 ロードメンテナンス㈱
専務取締役
遠藤治郎 新潟大学農学部教授
遠藤八十ー 農林水産省森林総合研究所
十日町試験地主任研究官
尾山栄一 北陸電力株式会社工務部送電課長
神蔵勝雄 新潟県企画調整部雪対策室長
小林俊一 新潟大学
積雪地域災害研究センター教授
杉森正義 福井県積雪対策技術センター次長
須田公男 佐藤工業(株)北陸支店次長
高野 誠 東北電力(株)新潟支店送配電部長
高見晋一 農林水産省北陸農業試験場
気象資源研究室長

中村 勉 防災科学技術研究所
長岡雪氷防災実験研究所所長
早川典生 長岡技術科学大学建設系教授
原 洋二 JR東日本新潟支社工務部長
前田博司 福井工業大学教授
町田 誠 町田建設株式会社社長
向井俊久 富山県企画県民部水雪対策室長
村山 実 新潟産業大学教授
監 事
湯本喜久雄 ソーラーシステム(株)社長
渡辺成雄 元農林水産省林業試験場
十日町試験地主任研究官

理事幹事会

平成3年度第1回理事・幹事合同会議報告

平成3年7月13日(土)15時より、長岡技術科学大学機械系会議室にて、第1回理事・幹事会が開催された。梅村新支部長の挨拶に始まり前回理事・幹事会議事録の確認と平成3年度支部総会の報告が行われた。次に顧問・評議員・幹事の人選を行った。その後総会の議決に基づき、平成3年度事業計画・学術・学習会の実施のための具体案を審議し、平成2年度と同様に、講演会・見学会・交流会を行うこととし、担当者等を確認した。また、講師の謝礼を引き上げることが承認された。技術部会については、梅村主査(屋根雪処理部会)から活動報告、会計報告があった。機関誌は編集委員が半数交替し、中尾新編集委員長のもとで7号(8/1発行済)・8号を発行し、ニューズレターを隔月計6回発行することとした。次に、支部賞の設立について特別委員会を設置して検討することとなり委員長に中村前支部長が選ばれた。冬季オリンピックが長野県で開催されたことに関連して、長野県会員の増強と活動の活性化についての準備状況が早川理事から報告された。最後に学会本部の動向として、当支部の中村前支部長が副会長になられたことや、委員会制が発足し、当支部から対馬、小林(俊)両理事が編集担当委員に、早川理事が事業担当委員に、中尾理事が広報担当委員として学会本部活動に尽力されることが報告された。

学習会

福井地区学習会(H3年度第1回)のお知らせ

緊急

と き 1991年7月23日(火)13:30~16:00
と ころ 福井県立図書館大会議室
福井市城東1丁目18-21 (0776-24-5167)
内 容 16mm 三八豪雪の記録、スイスの雪崩対策のスライド他
連絡先 福井県雪対策技術センター 杉森正義
(0776-35-2412)

「黒部ダム・黒部川第四発電所」見学会

日 時： 平成3年8月30日（金）

日 程： 宇奈月クラブハウス 徒歩 黒部川電気記念館 徒歩
 （8：00発）

—— 黒部峡谷鉄道宇奈月駅 軌道 黒部川第四発電所見学（昼食）
 （8：39発） （10：52～11：55）

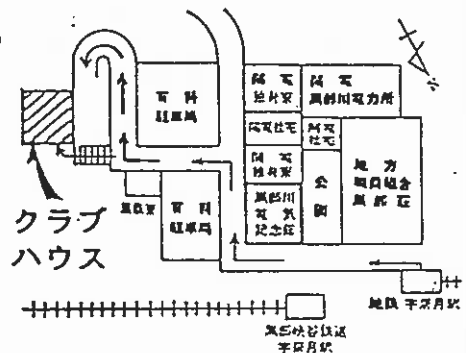
インクライン・バス バス
 黒部ダム見学 信濃大町駅
 （12：40～13：35） （14：40着）

集合・解散： 集合 関西電力（株）・宇奈月クラブハウス
 TEL（0765）62-1712
 解散 JR信濃大町駅

定 員： 18名（世話役の対馬、高瀬を除く）（先着順）

参加費： 宇奈月クラブハウス宿泊費（夕食・朝食代を含む）3,872円
 宇奈月クラブハウスから信濃大町駅までの交通費・昼食は、関西電力（株）で用意していただきます（無料）が、同クラブハウスまでの交通費及び帰りの信濃大町駅からの交通費は、各自で負担して下さい。

その他：（1）集合場所は、関西電力（株）宇奈月クラブハウスに、前日の8月29日（木）18：00（夕食の都合から）ですが、同クラブハウスは富山地铁本線終点「宇奈月温泉」駅で改札口を出て左側（徒歩10分）です。なお、JR「富山」駅からは、次の富山地铁電車（JR「富山」駅、正面改札口を出て左側）が、便利です。



電鉄富山 → 宇奈月温泉
 （16：30） （17：39）
 （料金1,700円）

（2）解散場所は、JR信濃大町駅14：40頃の前定ですが、帰りは次のJR大糸線・北陸本線が便利です。

信濃大町 → 糸魚川 → 富山
 （15：58） （17：57）, （18：18） （19：31）
 （料金 2,470円）

申し込み: 〒930 富山市五福3190 (TEL 0764-41-1271)
富山大学理学部 対馬勝年

または、

〒920 金沢市小立野2-40-20 (TEL 0762-61-2101)
金沢大学工学部 高瀬信忠

あてに、「氏名、勤務先の役職名」を御記入の上、葉書でお申し込み下さい(7月27日必着締切り)。なお、黒部川電気記念館から信濃大町駅までは、関西電力(株)の御案内で見学致しますが、案内パンフレット等は当日配布される予定です。

I G S

「1992年国際雪氷学シンポジウム」

I G S ナガオカ シンボ 速報

○実行委員会組織される。従来は9名の委員よりなる開催地準備委員会において準備が進められてきたが、開催まで1年余と迫ってきたこの6月、総勢22名よりなる国際雪氷学シンポジウム実行委員会が組織された。実行委員のメンバーは次のようである。中村勉(委員長、長岡雪氷研)、早川典生(副委員長、長岡技大)、赤井裕司(副委員長、長岡市助役)梅村晃由(長岡技大)、小林俊一(新潟大)、対馬勝年(富山大)、中尾正義(長岡雪氷研)、神蔵勝雄(新潟県雪対策室長)、五十嵐純夫(長岡市企画調整部長)、高見晋一(北陸農試)、遠藤八十一(農、十日町試験地)、石平貞夫(建、土研)、山田稔(長岡雪氷研)、納口恭明(長岡雪氷研)、小池俊雄(長岡技大)、東信彦(長岡技大)、和泉薫(新潟大)、村山実(新潟産業大)、川田邦夫(富山大)、佐藤和秀(長岡高専)、田村盛彰(長岡工高)、室橋清(長岡市企画調整部次長)

6月13日第1回委員会が長岡市役所に於て開催され、今後のスケジュール、委員の役割分担が討議された。

○第2回案内状発行。IGS本部は本年7月第2回案内状(Second Circular)を発表した。その日本語版は近く「雪氷」に発表予定であるがその一部をここに速報する。

論文提出期限 1992年3月1日 (A4 2枚程度をIGS本部へ送付)

本論文締切 1992年7月1日

参加費(1992年6月1日迄、以後は ¥5,000 追加)

会員 ¥35,000 非会員 ¥45,000 学生会員 ¥15,000 学生非会員 ¥20,000

同伴者 ¥15,000 (ここで会員とは IGS または日本雪氷学会会員)

尚、Second Circular 数部あります。御入用の方は中村か早川に御連絡下さい。

国際会議

第2回雪工学に関する国際会議のご案内

SECOND INTERNATIONAL CONFERENCE ON SNOW ENGINEERING

Santa Barbara, California

June 21-26, 1992

Engineering Foundation is sponsoring a forum for engineers, architects, and scientists to discuss investigative and design methods to mitigate natural hazards imposed by snow on buildings and other structures. We will examine the nature, distribution, and statistics of snow load, with an emphasis on improving building design criteria and mitigating damage. The Sheraton Hotel and Spa, Santa Barbara, California is the site of the conference, to be held on June 21-26, 1992. Conference Chairman is Ronald L. Sack, University of Oklahoma; Co-Chairman is Michael J. O'Rourke, Rensselaer Polytechnic Institute. Professor Kristoffer Apeland, Dr. J.E. Cernak, Dr. P.A. Irwin, Dr. N. Isyumov, Professor Shun'ichi Kobayashi, Mr. I. Mackinlay, Dr. H. Mihashi, Professor J. Suzuya, Dr. D.A. Taylor, and Mr. W. Tobiasson will serve as the advisory committee. The conference will attract people from a wide diversity of backgrounds and provide a unique setting for interchanging ideas, opinions, and working knowledge of snow engineering. By examining the respective investigative and design methods used by engineers, architects, and scientists we will enhance our knowledge of the nature, distribution and behavior of snow.

Through a series of technical presentations, workshops, poster sessions, and panel discussions we will explore:

- ground snow
- numerical modeling
- simulation
- snow and wind
- building design
- structural case histories
- experimental modeling
- architecture
- mechanical properties and behavior
- codes/standards.

All conference attendees are encouraged to contribute full length papers and papers for poster sessions. Proceedings will be published prior to the conference and will be distributed at registration.

Authors interested in submitting full-length and/or poster papers should send before October 1, 1991, a 200-word abstract (in English) including the title of the paper, names of all authors, their affiliations and the complete mailing address to:

Professor Ronald L. Sack
School of Civil Engineering and Env. Sci.
202 W. Boyd, Rm. 334
University of Oklahoma
Norman, OK 73019 U.S.A.
TEL: 405-325-5911 FAX: 405-325-7508

国内連絡先: 950-21新潟市五十嵐二の町8050
新潟大学積雪地域災害研究センター
小林俊一 TEL.025-262-7052
FAX.025-262-7050

Authors of accepted papers will be notified before December 1, 1991. The completed papers will be due by April 15, 1992.

Engineering Foundation Conferences were established in 1962 for the multidisciplinary study of engineering issues. The conference format consists of formal sessions in the morning and evening, with afternoons devoted to informal discussions. With all participants actively contributing, the conferences tend to generate ideas and disseminate information more effectively than conventional forums.

The Santa Barbara Airport is served by direct flights from various cities, including Los Angeles. Limousine service is available at a nominal cost from the Los Angeles Airport to the Sheraton Hotel & Spa in Santa Barbara (approximately 90 miles).

Attendance at Engineering Foundation Conferences is by invitation or application. Those wishing to attend should contact the Engineering Foundation for registration information. The conference fee, which includes registration, accommodations, and meals from dinner on Sunday through lunch on Friday are:

Participant (sharing room with guest or other participant)	\$790
Participant (single occupancy room)	\$975
Meals and lodging fee for guests sharing room with participant	\$425

Applicants may qualify for limited participant travel assistance and fee stipends. For further information, contact the Engineering Foundation, 345 East 47th Street, New York, NY 10017, U.S.A. Telephone 212-705-7835; FAX 212-705-7441.

講演会

講演会及び研究会のお知らせ

緊急

この度、高橋 裕先生（東京大学名誉教授・芝浦工業大学教授、専門：河川工学）をお迎えして、下記の講演会および研究会を開催することとなりました。御関心のある皆様方のご参加をお待ちしております。

記

日時 1991年7月23日（火） 13:30～17:00

場所 長岡技術科学大学建設系8F会議室

プログラム

13:30～15:50 研究会 『雪水文・水資源学研究』

長岡技術科学大学建設系防災研究室

15:50～16:00 休憩

16:00～17:00 講演 『日本の河川と水害』 講師 高橋 裕先生

17:15～19:00 懇親会 長岡技術科学大学福利棟第3食堂

連絡先 〒940-21 長岡市上富岡町1603-1 長岡技術科学大学建設系 小池俊雄

電話：0258-46-6000(6124), FAX：0258-47-0019

その他

『ニューズレター雪氷北信越』について

雪氷学会北信越支部では、支部会員への事業の案内や報告のために、今年度は毎奇数月10日前後に、ニューズレターを発行いたします。原稿を、下記の書式（できるだけワープロ原稿）で毎奇数月5日までに事務局にお送り下さい。

※書式 幅16.5cm, 1行: 33文字, 行数: 制限は設けないが手短に
字間: 2.5mm, 行間: 5.4mm

ニューズレターに関するお問い合わせは

長岡技術科学大学機械系 東 信彦 電話0258-46-6000 内線7120 まで